

【担当教員】

池野 正晴

【教員室または連絡先】

非常勤講師 (ikeno@tcue.ac.jp)

【授業目的および達成目標】

〔授業目的〕

学校教育における特別活動の意義とその位置づけについて認識を深め、生徒の人間形成にとって望ましい特別活動の展開に向けての実践的指導力を養成する。また、特別活動実施上の課題についても考察し、理解を深めることができるようにする。

〔到達目標〕

学校教育全体における特別活動の意義を理解し、各教科等との往還的な関連、組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付けている。

- ① 日本の学校教育における特別活動の意義と役割について説明することができる。
- ② 現在の特別活動の実施形態の基礎的事項について説明理することができる。
- ③ 特別活動の本質的な部分について、自分なりの考えをもつことができる。
- ④ 自らの視点を通して、今後の特別活動のあり方に関するアイデアを創造することができる。

【授業キーワード】

特別活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事

【授業内容および授業方法】

特別活動のねらい、特別活動の内容（ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事）、特別活動実施上の課題等々について考察する。特に、特別活動の中軸としてのホームルーム活動の指導については、教育の今日的課題と関連させながら考察を進め、実践的指導力を身につけていけるようにする。受講者によるプレゼン（受講者の資質・能力の育成にも貢献）及び対話形式（ともに考えること）を重視する。

【授業項目】

- 第1回：特別活動論・そのプロローグー「〇×10問チェック」を通してー
：「心に残る学校生活と特別活動」について考えるー体験としての特別活動ー
：プレゼン分担箇所の希望調査・決定
- 第2回：「特別活動の基礎・基本」について考える
- 第3回：「特別活動の歴史の変遷」について考える
- 第4回：「特別活動の目標と内容」について考える
- 第5回：「ホームルーム活動の理論と実践」，「生徒会活動の理論と実践」について考える
- 第6回：「学校行事の理論と実践」，「クラブ活動・部活動の理論と実践」について考える
- 第7回：「特別活動と生徒指導」，「特別活動と教科指導」について考える
- 第8回：「特別活動と総合的な探究の時間」，「特別活動とキャリア教育」について考える
：特別活動論・そのエピローグー「学校生活の律動化・授業の活性化の起点としての特別活動」について考えるー
：定期試験

※受講生の実態や教育界の動き等により、適宜内容や方法を変更・追加する場合もある

【授業時間外学習（予習・復習等）】

- 学習効果を上げるため、各時間ごとに教科書等の該当箇所を熟読し、授業内容に関する予習（事前学習）を90分程度行い、授業内容に関する復習・ノートまとめ（事後学習）を90分程度行うものとする。
- プレゼン担当者（orチーム）は、プレゼン分担箇所の内容について、関連文献にもあたりながら、調べ・整理して、プレゼン資料を作成する。（パフォーマンス課題として）

【教科書】

- 吉田・京免編著『特別活動』，ミネルヴァ書房，2020年

【参考書】

- 高旗・倉田編著『新しい特別活動指導論』（第2版），ミネルヴァ書房，2011年
- 文科省『高等学校学習指導要領解説・特別活動編』，東京書籍，2019年
- 文科省『高等学校学習指導要領』，東山書房，2018年

【成績の評価方法と評価項目】

- プレゼン資料の作成，及びそのプレゼンの内容全体 40%
- 期末テスト（筆記試験orレポートorまとめのプレゼン） 40%
- 自主コメント，ミニコメントの記入等 20%

【留意事項】

- 毎時間，各自が教師になるという当事者意識をもって参加・参画することが望まれる。
- 話し合いの場に参加し，ともに考えることを重視する。
- 教職・「教職試験」情報などについても，折に触れ紹介していくつもりである。

【備考】

実務経験のある教員等による授業科目

本授業は，教育機関における教員としての実務経験（高等学校校長等）を活かして講義を行う。